

学園

だより

平成 20 年 7 月 1 日発行
財団法人

中国四国酪農大 学校

電話 (0867) 66-3651

FAX (0867) 66-3652

E-mail jerko@mx4.et.tiki.ne.jp

<http://ww4.et.tiki.ne.jp/~jerko/>



第44期生 中蒜山頂上にて

巻頭の言葉

校長 上原逸史



今年の冬は、蒜山も例年になく大雪に見舞われ、残雪も長くあるのではないかと心配しておりますが、やはり温暖化の影響か平地では予想していたよりも融けるのが早く、酪農大学の牧草の伸びも良く一番草の収穫は昨年よりも多く、そしてトウモロコシの播種も順調に終わることができました。

さて、四月八日に第四十四期生二七名の入学式を大勢のご来賓のもとに盛大に挙行いたしました。北は栃木県から南は沖縄県と大きな夢と希望を持って入学してきた若者たちは、これからの日本の酪農を背負っていくこととなります。

最近の酪農情勢は、約二・五年の減産型計画生産から今年度は生乳計画生産数量の増産、三〇年ぶりの乳価の引き上げがあるものの、他方ではトウモロコシのバイオエタノール需要の増大による配合飼料価格の高騰に加え、原油高による石油関連資材



第2牧場牧草収穫



酪農大学校本館冬景色

の価格が上昇したことにより生産コストが上昇するなど厳しい状況が続くものと思われまます。また、世界に目を向ければ特に開発途上国で食糧不足等により五歳未満の子供の死亡が四人に一人と高く問題になっていまます。資源に乏しい我が国も、輸入に頼りすぎず自給率向上を図っていかなくては、経済力がなくなるとときに食糧不足に陥る危険性は強く他人事ではないこととです。さらに、第一産業が廃れていくと自然環境の崩壊にもつながります。

このよう

な状況を回避するためにも、自主性と社会人としての協調性を持ち優れた経営感覚、そして国際感覚を持った若い人々の力がかで頑張っておられる皆さんに続いて行ってくれることを期待しているところで

すので、皆様方の限りないご支援とご指導を賜りますようよろしくお願います。



お く や み

去る平成20年1月18日、本校で約一年間学生の指導に当たっていた佐藤光則技師が亡くなりました。佐藤技師は、平成19年4月に本校に赴任されて以来、職員のみならず学生からの信望も厚く残念で仕方がありません。

本年度も新入生が入学してまいりましたが、職員一同、佐藤技師の遺志を受け継ぎ、より一層学生の指導に注力していきたいと思えます。

謹んでご冥福を御祈り申し上げます。



学生の指導に当たる佐藤技師（右）

第42期生卒業証書授与式

理事長表彰 (特に学業品行優秀な者)

理事長表彰 優等賞 三島 愛架 (大阪府)

全国農業大学校協議会会長表彰 (特に成績優秀な者)

三島 愛架 (大阪府)

校長表彰

■ 優等賞 (学業品行優秀な者)

井上 多恵 (兵庫県) 小柳 健吾 (岡山県)
真辺 知佳 (高知県)

■ 精勤賞 (遅刻欠席などが無く、精勤に学習した者)

木村 風太 (岡山県) 平石 卓也 (香川県)
真辺 知佳 (高知県)

■ 努力賞 (学業、学校生活にわたり努力が認められた者)

上森 亨 (岡山県) 中村夏央里 (宮崎県)
山口真名美 (岡山県)

■ 就農激励賞 (卒業後直ちに就農し、今後その活躍が期待される者)

糸川 拓宏 (島根県) 上森 亨 (岡山県)
江渕 辰哉 (高知県) 中村夏央里 (宮崎県)
平石 卓也 (香川県) 平川 将太 (宮崎県)
松谷圭一郎 (長崎県) 三宅 勇輝 (岡山県)
宮崎有里子 (高知県) 八木 詔之 (宮崎県)
若山 進 (岡山県)

■ 卒業論文賞 (卒業論文が独自性に富み、優秀であった者)

豊田えい子 (兵庫県) :
「ジャージー種における体格と乳量の関係」
松谷圭一郎 (長崎県) :
「牛床環境が牛体に与える影響について」
真辺 知佳 (高知県) :
「仔牛の下痢対策」
三島 愛架 (大阪府) :
「クリーンな牛から、クリーンな牛乳」



教務課
便い

第44期生入学式

平成20年4月8日、第44期生17名 (p 8) が入学しました。内訳は男子学生8名、女子学生9名です。内、後継者は6名です。

出身地で見ると、中国四国及び兵庫県が11名 (内6名が岡山県出身者)、その他の地域としては、遠く栃木から沖縄まで6名となっています。



第42期卒業生 卒業式にて



同窓会長 あいつわつ

緑まぶしい季節
財団法人中国四国酪農高等学校
同窓会会長(第九期生)

川合 省吾



緑まぶしい季節、同窓諸兄の皆様いかがお過ごしのことでしょうか

わが母校もさる四月八日に四十四期生二七名を迎えました。私も卒業後三三年、孫もでき、じい様と呼ばれ酪農においてもはや中堅を過ぎ、そろそろポンコツの仲間入り。新人生を見ていると、希望に燃えていた学生時代を懐かしく思います。昨今の酪農の状況は厳しさを増して、出るのはため息ばかり...

バブリーな時期もあったのですが、学生時代はそんなことは思いもせず、ただ前だけ見ていた。そして、友とやんちゃなことばかりしてはじめていた。今更ながらいい思い出です。毎日頑張っておられる同窓諸兄の皆様、自分へのご褒美に青春を過ごした学園に来てみませんか？

現在は大学も様相がかなり変わりましたが、学園内のどこかに楽しく過ごした日々を見つけることができるはず。雄大な蒜山三座と四足の友人が歓迎してくれますよ。

酪農高等学校を卒業して

「牛」と働ける幸せ

第四十二期生 三島 愛架

私は今、在学中に紹介してもらった岡山大学の付属農場で働いています。高校時代から家畜と関わってきたので、今までのことが生かせる仕事に就けてすごく充実した日々を過ごしています。仕事の内容は基本的な飼養管理から草地の管理など一般の畜産農家さんと同じです。飼育頭数は仔牛も含め七〇頭程度をもう一人の職員さんと二人で管理しています。はじめ、この仕事を紹介してもらったときは少し迷いがありました。この岡山大学付属農場は乳牛ではなく和牛の繁殖を行っており、高校から酪農高等学校まで五年間ほとんど酪農の勉強しかしていなかった私にとって

和牛は未知の世界で考えもしなかった道だったからです。今となっては考えしてみると、あのころの私はずっと酪農の勉強をしてきたのに和牛の道に進んだら今までの努力と時間が全て水の泡になってしまふ、という考えから意地もあつたと思います。そのようなことから、最初は短期間だけという軽い気持ちでこの牧場に就職することに決めました。しかし、就職して実際に牧場で働いてみると、和牛と乳牛の見た目の違いや、生産物の違いがあるだけで、生き物と接しながら仕事が出来るといふ畜産ならではの楽しさに変わりはありませんでした。

現在では時々、仕事をしていて、ふと今の自分を考えることがあり、ずっと牛と直接関わる仕事をしたいと願っていたことが、実現できていることを幸せだなど感じ、笑みがこぼれてしまいます。あのときの選択は間違っていないのだと素直に思っています。勇気を出して新しい道に進むことは不安で、難しいことだけれども、その一歩で自分の世界がぐんと広がるチャンスなんだということに気付くことが出来ました。そして、酪農高等学校に来て、そのチャンスを掴むきっかけを作ってもらえたことに感謝しています。



筆者42期卒業生 三島愛架さん(中央)

これから、今までの経験を生かしながら、もっと知識を深め、何でも出来る

キャリアウーマンになっていきたいと思えます。

一年生になって

戸惑いの二年間、実践の二年目
第四十三期生 佐藤有希子

私が中国四国酪農高等学校に入学してから早くも一年が経ちました。振り返ってみるとこの一年は私が牛に初めて実際に触り勉強し、酪農に携わる第一歩の年でした。高校時代は動物に関する授業がなく、牛の知識は全くありませんでした。入学当時は右も左も分からず、分からないことだらけでした。毎日の専門的な講義にもついていけない心配でした。そんな中、実習の方では自分達の作業があるにもかかわらず先輩方は私達にひとつひとつ丁寧に作業を教えてくださいました。先輩方にはすごく迷惑をかけたと思います。先輩方のおかげで二年間の作業をやり遂げることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

とはトラクター・けん引演習です。実習のあいまの時間を見つけては本館の裏に行き、友達や先生に見てもらい切り返しの練習をしたのを覚えています。結果は良いものばかりではなかったのですが、私にとって貴重な体験となりました。私が入学以前に想像していたことと違う箇所もあり、戸惑うことも多々ありました。何度も辞めたいと思ったこともあり、私には向いてないと思った時期もありました。しかし、そんな中私を支えてくれたのは両親やルームメイトでした。この支えがあつたからこそ、今があると考えます。これから私は校外の研修農家へ研修に出ます。酪農高等学校での一年間の経験を活かし、研修農家に出ても恥ずかしくないよう精一杯頑張りたいです。また、校内へ帰ってからも受精卵移植、削蹄演習の資格取得の機会があるので積極的に取得したいと思えます。酪農高等学校と一緒に暮らしてきたルームメイト仲間とは卒業してからは会う機会が減ると思いますが、共に酪農業界で働く者として少しでも業界に貢献し頑張っていきたいです。



筆者43期生 佐藤有希子さん(右)

ように、さまざまに体験をさせてもらったなか、私がいちばん努力し印象に残っているこ

卒業生のみなさん
酪農の未来を支える
若者を紹介して下さい

牛に学ぶ 蒜山で

ひるぜん

〈学生募集〉

推薦募集	受付期間	平成20年9月1日～10月3日	試験日	平成20年10月18日
第1次募集	受付期間	平成20年11月1日～11月30日	試験日	平成20年12月8日
第2次募集	受付期間	平成20年12月13日～平成21年2月7日	試験日	平成21年2月20日

詳しくはホームページで：<http://ww4.et.tiki.ne.jp/~jerko/>

財団法人 中国四国酪農大学校

〈資料請求先〉

〒717-0604 岡山県真庭市蒜山西茅部 632

TEL (0867) 66-3651 (代) FAX (0867) 66-3652



第1牧場赤白斑ホルスタイン

日に日に暖かくなり始め、葉桜が揺れている今日この頃ですが、卒業生の皆様にはお元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。今年も本校から二四名の卒業生が力強く巣立っていき、十七名の新生が期待に胸をふくらませて入学

し、二週間が過ぎ学校の生活にも慣れ始めてきた頃だと思えます。

平成二十年度の第一牧場は井上経営課長、中山場長、池田技師の三人で頑張っています。

乳用牛については、職員・学生の努力の甲斐あって年々牛群の質も向上しており、現在の平均搾乳頭数が四十頭、平均乳量は九四〇〇kgですが、今年度は四十五頭、一〇〇〇〇kgを目標にしています。

また改良についても昨年度に受精卵で受胎した仔牛が誕生し始め、これらを中心に共進会で良い成績

が残せるよう頑張っていきたいと思えます。

昨年度の問題として牛体の汚れについては、牛洗・ブラッシングをこまめに行うことで改善していきたいと思えます。

牧草の状況については、十七・十八年度は台風の影響でトウモロコシが倒れ収穫量が少なく四月にはサイレージが無くなっていましたが、十九年度は四月後半に播種したことで、収穫時期が早くなり台風による被害もなく六月末までサイレージを給与することが出来そうです。今年度も四月後半に播種を行いました。また牧草については、昨年度に草地の造成・更新を行い収穫量の増産を期待するところであります。

最後になりましたが、卒業生の皆様には酪農大学

校の近くにお越しの際には、本校に足を運んでくだされば幸いです。

飼養頭数

H20.4.1 現在

区 分	第1牧場	第2牧場
経産牛	46	94
育成子牛	27	58
乳用牛計	73	152
肥育牛	16	0
肉用牛計	16	0
合 計	89	152



第1牧場トウモロコシ収穫



第2牧場平成20年度初放牧

今年度の初放牧は四月二十五日に行いました。去年に引き続き「ジャージーふれあい広場」にも六ヶ月齢の雌牛三頭を放牧しました。計画では、休暇村蒜山高原の前の草地にも放牧予定にしております。大山、蒜

山三座を背景に、ジャージー牛たちが草を食む姿は、私たち職員や学生だけでなく、観光客の人たちの心をも和ませるものと思います。

第二牧場の今年が目標は二つあります。一つは乳質対策です。①正しい搾乳手順の徹底。②潜在性乳房炎牛の摘発、淘汰。③乳房が糞尿で汚れないようにベッドメイキングを工夫する。この三点をきちんと守って結果を出したいと思います。もう一つは、ハエ対策です。前年度は特にサシバエが大量に発生し、搾乳中に指された牛がミルカーを蹴落として作業時間が長くなるだけでなく、衛生面でも問題でした。ハエのライフサイクルに合わせて、的確な薬剤、トラップ法などを組み合わせせて行こうと思います。

さて、最後になります。現在酪農大学校生である生徒達も、いつかは社

会にはばたいてゆく日がやってきます。その日のためにもぜひ相手の立場を思いやる気持ちや支え合う心、そして謙虚な姿勢など社会人としての大切な心構えを学生生活の中で学び、酪農大学校の卒業生であることを誇りに思ってもらえるような学校作りに取り組んでいきたいと思っております。蒜山においでの際は学校の方へお気軽にお立ち寄り下さい。職員一同心からお待ちしております。



新入生を学校に迎えての新年度が始まりました。卒業生の皆様には、お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。今年も、新入生十七名と少ない中

で、職員・学生共に協力して日々の作業に取り組んでいます。職員は、串田場長、長綱技師、北野技師、寺田技師、西村技師が第二牧場の担当となります。

今年度も宜しくお願いたします。



第2牧場搾乳風景

職員紹介

校長 上原 逸史
副校長 森本 博之
(教務課長兼務)

総務課

課長 中務 浩一
主事 有富 英美
事務員 法花千恵美

教務課

技師 芦田 草太
岡崎 奈々
村田 崇浩 ◎

調理員

谷口 育子
藤本 光子
小椋 麗子

経営課

課長 井上 信治 ◎

第一牧場

技師 中山 裕貴

技師 池田 良弘 ○

第二牧場

技師 串田 晴彦 ◎

技師 長綱 則之 ◎

技師 北野 紘平 ◎

技師 寺田 孝一 ◎

技師 西村 祐枝 ◎

○印は内部異動者
◎印は新職員